

4-10

演題	正確な排便量を知ろう！
副題	～施設内での排便量の統一、卵1個はどの位？～

法人名	社会福祉法人 竹生会
施設名	たきがしら芭蕉苑

発表者名 (職種)	成田 美涼 看護師等
共同発表者	鈴木 進司
共同発表者	石田 恭平
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市磯子区滝頭 2-30-1
TEL	045-750-5151
FAX	045-750-5152
メールアドレス	chikubu.sakashita@shonanbayarea.com
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人竹生会特別養護老人ホームたきがしら芭蕉苑は、平成16年に開設しました。定員は、本入所120床・ショートステイ10床の計130床です。サテライト施設に特別養護老人ホームちくぶ坂下ホーム29床があります。
---------------------------	--

研究の目的、PRポイント

「排便量」は入居者様の健康管理や排便コントロール上とても重要です。これまで、排便量の表現方法に関して「卵何個分、小・中・多量」等の取り決めがありました。しかし、卵の大きさや「小・中・多量」に相当する実際の量の感覚が職員によって違っていた為、同じ表現でも実際の量に差が生じてしまい、正確な量の共通認識が出来ていない状況でした。そこで、看護課・栄養課・施設福祉1課・2課で協力し、排便量を表現する時に個人差が生じない為の基準を設けることにしました。誰でも一目で基準を確認し正確に伝えられるように、どのような所に工夫して考えたかを発表したいと思います。

取り組んだ課題

- ① 有形便の基準の見直し
- ② 無形便の基準の見直し
- ③ 新しい基準の周知徹底

具体的な取り組み

- ① 有形便の基準の見直し
 - ・ 卵1個分のサイズ等を決める
 - ・ 粘土で目安となる模型を作成
- ② 無形便の基準の見直し
 - ・ 卵1個分の基準に合わせて小、中、多量の量を決める
 - ・ 泥状便、水様便の疑似便を作成する
 - ・ 実際に疑似便をパットに出して目安となる模型をつくる
- ③ 新しい基準の周知徹底
 - ・ ポスターや研修等、周知の方法を決める。
 - ・ アンケートで職員の意見を聞く
 - ・ 実際の周知度と効果の確認

活動の成果と評価

様々な性状のある便をどのような基準で量を統一し表現するかにとっても悩みました。そこで、私達は+1(卵一つ分)を50mm×40mm・60gとし色々な形状や性状の疑似便を作り周知することにしました。それにより個人の感覚によって生じていた便量の差は少な

くなり排便コントロールもより正確に行うことが出来るようになり一定の効果があつたと感じています。

今後の課題

今回の取り組みで職員間での排便量の共通認識が出来ました。今後は、この基準を用いて収集した情報から入居者さん個々に適した排便量や排便パターン等を明確にしていき医療や介護面での個別ケアに繋がっていきたいです。その為には、継続して職員の認識の確認を行ったり新人教育に組み込んでいったりできるように研修等を考え行っていきたいです。